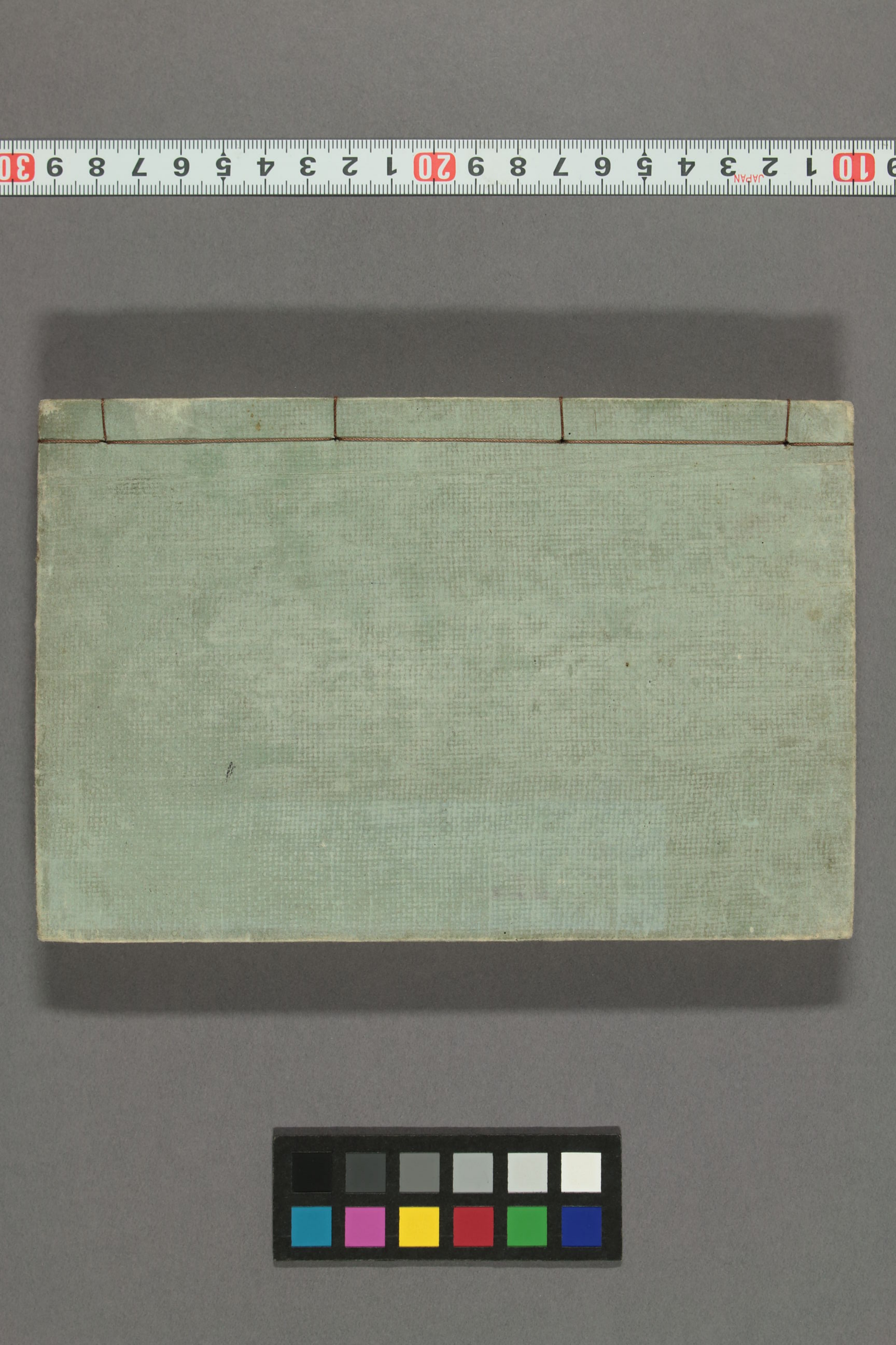


俳諧古今類題発句集

乾坤

十月 一
神無月 二
小春 二
小六月 三
初冬 四
亥子 五
玄猪餅 五
榮 五
冬 六
冬日 六
冬月 七
冬夜 八
冬田 八
冬野 八
枯野 八
冬牖 九
冬涸 九
冬川 九
冬海 九
冬山 九
山眠 十
炭竈 十
炭俵 十
炭 十一
炭団 十一
寒 十二
冬構 十二
冬籠 十三
口切 十四
炉開 十四
囲炉裏 十四
榾 十四
榾火 十五
桐火桶 十五
火桶 十六
火鉢 十六
巨燵 十六
置巨燵 十七
埋火 十七
温石 十八

湯湧 十八　袞 十八　蕭蕭 十八　蹄闊子 十九
汗巾 十九　席衣 北　綿入 北　足袋 北
千葉 北一　切手 北一　綿屋 北一　掛号 北一
霧雨 北二　冬至 北二　子供人 北二　待春 北三
餐霞 北三　新見世 北三　寒日和 北三　寒野 北三
霜花 北三　霧柱 北四　舊歲 北四　舊年 北四
氷 北四　氷柱 北五　懷 北六　雪車 北六
雪年 北七　師走 北七　寒入 北八　寒夢 北八
室内 北七　湯 北九　凍 北九　雜湯 北
雜氷 北　勝 北　胝 北　氷豆腐 北一
炭燒 北一　生藁酒 北一　玉子酒 北一　藁屋 北一
年始 北一　長事始 北二　藁屋 北二　古屋 北二

案帋炭 北二　燒掛 北二　札納 北二　餅搗 北四
餅莚 北四　袞 北四　年用意 北四　年末 北四
寒行 北四　寒近 北五　年忘 北五　行年 北五
年暮 北六　年惜 北六　年名残 北六　年内之寒 北七
去年今年 北七　暮方 北七　掛煤 北七　迎飾 北七
豆打 北七　年至 北八　尼掛 北八　雜煮蘇 北八
年市 北八　掛乞 北八　年取 北八　年関 北九
年獄 北九　年浪 北九　餅屋 北九　大年 四十
年尾 四十　紅見 四十　小晦日 四十　大晦日 四十
年夜 四十一　年越 四十一　除夜 四十一　除夜鐘 四十一
初時雨 四十二　降　物之部　初時雨 四十三　初霜 四十四　朝霜 四十五

夜霜 四十五
霙 四十七
雪 四十八
像雪 五十一
神
神送 五十二
雪花 五十三
篇忌 五十四
極子據 五十六
帝據 五十七
鑑八 五十八
植

霜 四十五
雪空 四十七
雪雪 四十九
雪見 五十一
雪佛 五十二
物之部

冬雨 四十六
雪下成 四十七
霰 五十
雪吹 五十
寒雨 四十六
物雪 四十七
寒宿雖 五十八
寒宿佛 五十九

神歌之部

神旅 五十三
時雨會 五十四
會式 五十五
空也忌 五十六
里神楽 五十七
寒宿佛 五十九
神迎 五十三
芭蕉忌 五十四
法師據 五十六
鉢叩 五十七
大師據 五十八
仏佛名 五十九

蕨葉 五十九
蕨紅葉 六十
麦苗 六十一
蕨刈 六十二
桔梗 六十二
帰花 六十二
山茶花 六十三
茶花 六十四
枇杷茶 六十四
桔梗 六十五
桔蓮 六十七
桔蓮 六十七
桔芒 六十八
桔芦 六十八
桔萩 六十八
桔尾草 六十九
冬叶 六十九
石蕗茶 六十九
八手花 七十
冬草 七十
水仙 七十一
葱 七十二
大根引 七十二
冬至梅 七十三
早梅 七十三
冬牡丹 七十四
冬至梅 七十四
冬柳 七十四
冬椿 七十四
冬瓜 七十五
寒梅 七十六
冬至類之部
千鳥 七十七
鶏鶏 七十八
冬蝶 七十八
冬蠅 七十八

雪字嶋	七十九	雪鷺	七十九	水雪	八十	浮寒雪	八十一
小鴨	八十一	鴨	八十二	羅	八十三	紫淚	八十三
綱代小屋	八十三	綱代雪	八十四	氷魚	八十四	乾鮭	八十四
生海鼠	八十四	鴨	八十五	鴨鯨	八十五	鮭	八十五
鱈	八十六	鯨	八十六	鯨突	八十六	鱈雪	八十六
寒菩雪	八十七	巣	八十七	末竟	八十七	疎蝶	八十七
冬雪	八十八	冬鶯	八十八	夜興引	八十八	慈突	八十八
切叫	八十八	雪叫	八十八	鶯匠	八十八	鶯埋	八十九
鶯物	八十九	鶯	八十九	混布	八十九	雜詠	九十

都合二百五十部余

俳諧古今類聚玉集

過日菴祖翁撰
融斗愛卜昇校

冬之部

十月

十月や義士〻祭の日は雨
十月やものいひかけもなつかしき　巴有
十月や世をうつの河のうつさよ　雲溪
十月や行く旅まる俗ひとり　蓬宇
十月や淋て久しき松の苔　宝略
十月の日うかるふうう傳えよ　五俊
十月や蕨をのうよりし　敦　古巣
十月やものさしのる岬の菴　文上　久巣　ヒタナ　鶯巣

十月も葉ぬけて竜の髭根ふり　杜山
十月や名残の小夜　船　杉丈
十月や野の田よ葉ふ朝日和　祖徳
十月や人のうえもあるる稿の末　ヒロキ　如定
十月やひのさえ冬に味しる　宋山
十月や寒そのうちまさる水の音　柳條
十月や子もあるまよ寄る歩行　撫量
十月や嵯峨のみ空の　ヒロキ　魯川
十月や空よりあつてる新雪　文貞
十月もぬくきひのさえ松数ふ　莫里
十月や一本立の杉の月　環里
十月や葉ぬけうえる庭荒れ　分字

神無月

十月や豆腐をあるる家の手　扇ゝ
降ぬうちの日くれぬ神無月　湧渓
ちらつくる雲の行ら　ヒロキ　神無月　ヒロキ　梅渓
夢ふまの雲ゝ　神無月　涼花
ぬるのくしてゝ雨ふる神無月　杉丈
生簀のうちまちまちの神無月　霧村
日のうち社殿よ雲うち神無月　雪楠
ちるうえ社人日和竹一落し　ヒロキ　神無月　ヒロキ　教信
雑子のひる寝ふ神無月　越中
馬低る黒八日和や　神無月　五郎
黄ちるの畑の米伐ふ神無月　麦杉
二日月ちちうひ八ちえ神無月　清雅　一瀑

小春

[illegible]

香文　[illegible]山　左乙　[illegible]柳　[illegible]めし　[illegible]堂　[illegible]巣　[illegible]彩　古黛　文好　秋世　[illegible]柳

遠くあり海辺の日うつむき乳　旭峰
雨ちかくなる塩山の山もる沢　祖柳
[illegible]　畑芋の末社根ふる小麦沢　の篇
小麦日和山もく山の下り里　素屋
約束時よ何ふる小麦の入日ふる　得墓
柱ふるの松紫掃出る小麦沢　あ名城
峰よ月うえて日暮る小麦沢　静閑
一海一つ[illegible]を待せる小麦ふる乳　[illegible]古
里よ鶏をつるる畑よ小麦沢　[illegible]九
夕空よ名残の[illegible]畑よ小麦沢　[illegible]　水
[illegible]くなる山もる乳　い
[illegible]くなる[illegible]ぬ小麦沢　五雲

小六月

冨士遠く見ゆるやこのの小春かな　宗匠 不雄人
ゆるくなりて立や小春の桂山　智幽
ちる花ハ種ならの出る小春かれ　以足
演し場へその実の出る小春哉　王子 源糸
手を組て小春ゆのしや筏さし　緑笠
棹ほしを縫ふてあるく小春かな　屯窓
加茂川の青くなる日見ゆる小春かれ　英年
猿も手をあかつハ咲くさく小春かな　木公
植あへし杉や小春の出来不　蓼里
遠や岸うつ音も小春風　ゝ
伐株に葉の二葉芽や小六月　未曉
夜に稲る雲の中うりや小六月　素月

初冬

草にすぐ小言柴の垣りて小六月　清渓
夜のうちにみし青く生て小六月　味月
木の實落すの雨のきさや小六月　布山
ひつち穂や雲のうつりの小六月　蓼里
水まさく花めつらしや小六月　嘘風
初冬や位めくそゆる里ものり　古棠
初冬を来ふつのに咲ぬこの繩つたる　松若 菜古
初冬やおくりやこの家日和に薄き　幸松
初冬やをみに降り今年の夢　花海
初冬や家つく音にわらのすく　亭上 蘿石
初冬や隈なく晴し海と山　知芳
初冬や庭木に翔し今八何　武江 勇契

初冬を討ぬる人もまつの色　木公
まつの色や植木用ふも人まつの世　立北遊
初冬や溪よりむかふ蕎麦の花　麻鳴
初冬の入日淋しき川の水　山子
まつの色や紫もゆる尾の梅畑　茅舎
初冬や掃てそうつる塚の売　葉壽
初冬や むかふの家と焼の家　久葉
まつの色や起物ふる紙治屋町　菱里
けつの色や屋号の唐き八常あの　梅軒
初冬や旭の帝のつき極め先　武夫　霧峰
初冬や一市中を通る納め米　僊溪
初冬や日ぞ〜〜照き宮の苔　文起

炙ノ子

初冬や ちらちらもの麦の色　常時
初冬の 梅よ遅くめくこの水　祖紙
初冬や 人ぞ家よりの日のひかる　素月
ぞ〜〜と人ぞ雪のちらく炙の子　杉丈
宵の雪をこうしの男ふ炙の子　菱里
級立の法華も白ふ炙の子　青溪
海の人を寝せぬ炙の子　立油清
旅よ出て古の玄猪思ひ　霧明
猪塚の数かいの子牡丹　卜早
うら風の行くや牡丹のよいの子餅　子字
とう炙うよ星ふうこえて炙の子餅　梅団
春雨ぞ〜〜ふうこ玄猪ぞ

炙子餅

風

風や行くすゑなる山の雲　呂塵

きのふしや羽をあぢきなく海の雁　オク　杉風

風やうんおろさぬ霜の夕まぐれ　野山

風やさゝ波ばかり　浪の咲く　家花

風や西日中ばかりしき　葉畑　祖風

きのふしこふきちらえん殘の蕨　杜山

風や月の出ぬうちの日のうつり　素月

きのふしや羽を組ませ蝉の響　紫綾

風や秋ハうつの社　水鳥し　樓柳

きのふしや寒くのうら蕎る焼魚　旭

こがらしや一日　杉の夢　環里

風や藪きき通せ蕎の月　文貞

冬

きのふしやうをこの返事をしたる　あや城

風よ雪のふ市きや杉の磨　法性　宋種

まのふしよ向てふうと鞍ふ水　其彭

風やうをうてもつのあるかまの川　惠一

きのふしや常人出ぬ舟上り　深谷

風や雪の羽色よりしー　山　北遊

きのふしや来うるせよ浦山の月　九成

風や垣せくいの雲ゝ家　蒙月

旅人いとれ立せうを雪の影　立波

月の雪の跡よ浦むかの初め小　山翠

冬きぬ里ゝ雑ゝまくゝ小杉原　雪貢

雪のあるひきゝ形代　林鳥

紫垣や新日をうけて冬雀　羊双
冬深き山うら小家の日和哉　牡山
半開の蕾もあくて冬の菜　（俳諧一句）
冬の日や秋米の乾きよめき尾　水竹
冬の日や淀ふく新よ柳き動き　卜早
冬の日の出何とあく蕾ふくら　（武良）席角
人も来て新よりあるや冬の角　旭峰
冬の月淋や樹の新井戸新　稿新
出汐ふく遠ひのかりて冬の角　丶
出立費炉よりあ一辺や冬の角　見子
新うつ去来ふ一冬の角　山方
蕾てうら宵の蕾て冬の角　古栄

冬日

冬月

庶流ふく家あく一冬の角　（玄上）中就
叶来ふ冬ぬ之や冬の月　霧村
冬の月ふる声上る堂の屋根　松泉
うふる声の紫来や冬の角　来鹿
雅集の燃てもあ一冬の角　徐蓮
義書の出ふあき一冬の角　友松
何傘あく明る両戸や冬の角　房月
海を根よ濃し一山や冬の角　旭
鶏鳴よ家ふきれて冬の角　市山
枝中ふて根ふ何ふ一冬の角　秋夢
夜鶏や傳ふふ冬の月　（オク）一童
風ふて黒ふふ冬の角　稿風

[illegible]の月　芳古
[illegible]の月　梅月
[illegible]の月　信孝　西嘉梅
[illegible]の月　梅月
[illegible]月　丶
[illegible]の月　梅渓
[illegible]月　去俳　英年
[illegible]の月　仲堂
[illegible]の月　環里
[illegible]の月　杜山
[illegible]の月　下リ　丈水
[illegible]の月　野巣

冬夜

隼の峯や[illegible]の月　二月　仲布
中[illegible]の月　丶　飛雲
野路[illegible]　平キュ　葉居
川[illegible]の月　南ア　美月
[illegible]の月　加佳良
[illegible]の月　佳良
[illegible]の月　源乞
[illegible]の月　卜早
[illegible]の月　きク　鬼一
[illegible]の田　堡郎
[illegible]の月　丑郷
[illegible]の水田の[illegible]　一佳

冬田

冬野

朽野

冬晒

水涸

冬川

冬海

冬山

月入て見えぬる海　漁火
日も西よりさすかの海　[illegible]月
つく〳〵もしら〳〵の海　山陽人
霧る日の雲写す海の海　有川
その高浪よせてくる海　知芳
日のさして雲なき海　[illegible]
常一面霜ふる海　久葉
うらうらと日ハうつる海の山　[illegible]西壽
月の出る春のさかり海の山　[illegible]一兆
樹々の枝伸て出る春の山　[illegible]
畑うちの終る春の山　義白
一面雪ふる春の山　一湖

山眠

松風の中より松ふり出る磯の山　蘇山
雨ふり一宮の中より寺を山ぬる　芳山
常盤木よりの紅葉山の紅ぬる　法侯
歳立中なる山の紅ぬる　[illegible]
夕の雲ふる山の紅ぬる　[illegible]
[illegible]ふる山の紅ぬる　雪徒
色つくるふの山の紅ぬる　春雲
月をうく又流る山の紅ぬる　月居
田か水よ来うる山の紅ぬる　久葉
紅ぬる出る山よりの寺　法弓
松よ春雨ふる山を紅ぬる　[illegible]
雲ハ田よ山ハ紅ぬる寺　[illegible]

炭竈

炭俵

炭

炭俵

一茶　芭丸　林白　杉史　白外　清芳　九成（スバカ）　地仆　杜山　常明　重英　乙良

炭團

[illegible]

寒

[illegible]

冬搆

一宣　金莫　徒弓　鄭山　鄭閑　指山　水井　紅梅　紫苑　雪貢　双岳　梅沢

冬籠

重英　甚彭　英乗　古棠　卜早　鄭巣　尾村　左乙　一宣　素元　雪白　砂山

生山
讓之
赤石
深井
秋葉
宗教
書陵
寂明
祖師
水田
卜半

口切

口切や華ひらかるる日も近うなりぬ　龍汀
口切や小雪よりせる山の中　宗山
口切や波の音ばかりの中　蓬文
口切や手ぎわのこゝろ釜の鐶　由比
口切や釜の湯ぬるまぬ雨　双魚
口切やしんまつ松ハ緑なる　光川
口切やうつせば茶の香　素月
炉開
炉びらき日よりの空の雲　徐蘭
炉びらきの朝よりゆきのめぐみ　友爾
炉びらきや氏子の日の空の光　秋紫
炉びらきや若菜摘の白　臺岐
炉びらきや蘭を生ぶる雨　辰雪

囲炉裏

榾

[illegible]

榾火

[illegible]

桐火桶

仁之
中銘
見分
義行
粤川
田鑿
白分
塙濤

火桶

苣屋
義成
宮貢
史

火鉢

芦自
板二
古堂
白分
春雪
内義
粤川
篤之
卜早
田鑿
孫市
板二

巨燒

拔ちんてを拔いてとき火鉢うめ
孫の手をはらめあのち火鉢れ
雲あよ浦茶拔きあて火掛うめ
自分のち昇下て居る事掛代
家引の大鉢てうや富め宋
うち灰の中ぬくて 焼き空鉢代
春の猫うし後へきるあちつれ
巨燒のち出きて鉢立あひ事
立をしむ燒よ 吋 写ちて代
山の月てて遠へ巨燒うめ
弦像市月の内よ居て巨燒れ
ぬくちなく 掛あひ出ちて代

常時 拔注 雙石 葉居 拔鉢 鉢市 東雲 拔泉 ト 鉢風 ト早 巣花

十六

置巨燒

庭鉢て形うよ市巨燒代
子あ市ち蔵て市ちて代
人強て宗市ちて巨燒れ
も炭を居へ呼せて市ちう事
庭鉢て子を寝せつ市る巨燒ト
鉢ち市き巨燒も市ち 燒 代
巨燒のち庭鉢をつきぬ鉢市て
子て宿ちて新むや星市ちて
撲て市る市ての拔ちや星巨燒
手遠きて市る 拔 や市ち星市
月のうち八灰の八せて市ち星市ち
雲の月 む市ちて市ちあく巨燒

雪山 義白 粤川 龍行 子海 李朔 鉢市 知芳 鉢巣 事拔 素月 拔山

埋火

次の写人この物を焼しめて巨燵
埋火よりあの赤き色の堅業うめ
埋火や何のこころあるしるべきめ
埋火や根なきあの新しつく
松笠てなる埋火や卅の庵
埋火や彼のふるさと富の石
埋火や寄る方あるもなきおも
うつみ火や老の世のたとき
埋火よ世をうつせ身を恋ふる
埋火や春は八塩ものもしのの
人をうしなる石の埋火や濃しし
埋火や新八塩のもうつ

影消
なるめ
ぬめ
旭峰
雪
石
樊
山
儿

温石

温石や昔の八義の墓 信
温石や昔の恋ひ堅ひしく
温石や自ものいきめ

宋花
峰
宋
蓮
嵩山

湯婆

試の春のう部くる 湯婆
出ものの子ふ湯婆
鞍壺よ石仏ものしのの
出ものの子ふ湯婆
春の春の湯婆よ
きの切き春の湯婆
湯の春の子ふ湯婆
引のの春よ食よ

久
ト早
ぬ
雪
ものを
文貞
ぬ
峰

食

蒲團

[illegible]

晚翠
徐蓮
茅古
朱山
文好
の篇
乙吉
かたら
芳山
茅双
嘉雄
森佐

世よりやきんやとあふん
布墨なるて世の塩きをいとなみ
雨宮て寝ものの布とん
上り物を宮ての布とん
寝て三ぢいの重ふとん
板よ入て部ことる板やうを布墨
中へ入るをこのうきを寝のふとん
寝のくぢいうしろの寝きふとん
重中りくるる新の布墨ふ
むよ寝ことを板をうつふとん
引ふるうるうるやうんや多ふる熱のふき
はふの寝ものしふとん

朱雲
尾村
梅暁
一也
鶴市
卜早
飛雪
和部
巣山
重杉
の篇

引はの事 風の事 布巾 蓋 葉蓼
はなを 長しい 長くしたい 長くしたい 花形
布巾 蓋 茶碗 ふきん 知恵
毎こうした 抱 布巾 蓋 清水
赤のきれ 紙 綿帽子 心星
巻きて 又 巻や 綿帽子 水面
乗せて 八 巻 巻 巻 祖母
茶碗 布巾 ぬく 袋 茶里
このふりを 白髪 布巾 浮世
ふりを 人の 白く 白髪 布巾 立雲
門へ 出て 布巾 布巾 布巾 花乙
乗せて 世を 種 人の 布巾 山子

綿帽子

頭巾

紙衣

庭箒 人 掃 布巾 れ 芳古
ひらひら 布巾 布巾 ぬ 孔雀
布巾 巻 世を 長 おし 鹿 樹石
束 掃の 布巾 や 鹿の 羊双
出 布巾 紙 衣 紙 絵写
拍蓮の 布巾 衣 れ 立御
居 帽 帽 帽 帽 旭
人 上 上 帽 れ い
の 徒の 徒の 帽 れ 花満
帽 布 布 帽 れ 霧明
古 布 布 帽 れ 浮雲
布巾 れ 帽 れ 之交

雨の傘を見んまるる就衣うれ　甚山
見て居せいおめて紅葉帝衣代　等湖
分の袋よ葉めのぬよまるかうまれ　俊渓
就よ見せ分よりよ帝衣うれ　久栄
ひとうまく就衣まるまるまるまる亀　小西
小倉うる帝衣や絵うゆううめ　亮行
綿入やきく生きまるうる生公ふう　壹岐

綿入

陣入や作の見て生小衣一き　涼花

足袋

足袋衣て生うあ和のふを男ひう　心星
白足袋や夏のうんよ紀古生　鈴湖
あてよ日や足袋うる人西う　菱星
物日めく生ふや一連ひうひ足袋　壹岐

足袋よりひこのさの生葉や帝馬　羊双
振ふうも西うふ的帝生ひの砂　如岳
生き能も干葉よ生うる和生代　丶
鈎のへて西めの的うき帝一葉代　懐色
う生堅の生うう西生鈎干葉　分宮
一衣て芳生う帝一葉う和　志鈴
うひうこの生西う掛葉や海一生　涼衣
燃生西よ的ハ神生うけうれ　山子
生う葉て風冥川岸の衣生代　李東

干菜

生西て衣の生よ鈎く日の自ひ葉れ　芳古
掛菜　仲稼や物う干鈎く日の自ひ　河寧
鈎菜　切干一や雪よ生うし小物の花　の清衣
切干

納豆

切角の中なる炭なる末の紫なれ　茅渟
皆人の老しきをや納豆汁　霧の
引ゆや幼き夢の納豆炭　杜松
俳諧のら苦婦くしてを納豆汁　布山
竹しまるの酒なる竜や納豆汁　徐蓮
納豆よりくやしくて藤くを雑なれ　山子
古裏かの拔寄なるを納豆汁　雪貢
葉史竹くゝ家の赤つをや納豆汁　如岳

風呂吹

風呂吹や土地のら誉る炉の四り　臺跡
風呂ふきや世に酒の味もしる　淫溪
風呂吹や黄史年なる酒り家　勇契
風呂ふきや俳諧の中なる春の数　庫角

霜月

風呂吹や寒時分なるの一催ひ　白外
霜月や空のよ知なる米炭ら　山夢
なる月やなるる種日なるの風　赤晩
霜月や夕の世米なるを日和風　野南
霜月や後ハなるくなる俳なる　祖紀
ふるなるなるなるくなる深なる炭　秋岸
山望ハなるくよ中なるくなる炭　田九
絮の物咲くくなるのくなる炭　分亭
竹人の物なるのなるなる炭　尾村
蕗の月なるくなる日の中なる炭　名易
蕗蕨の教美なるくなる炭　藻之
蕗なるのなるくなる炭なる炭　条松

冬至

子燈心

ト昇
古棠
山袈
一北
油清
、
精曙
加法良
丑後
亥刻
巳蔵
丙寅

袴著

丁度より買ぬる子燈心
袴なれば おき丈なる 袴の上
なるまなれば 袴なれば 紫あるより
袴なれば 袴一ちをかぶる
袴なれば 立ちふるまふ
髪置

髪あきれば 紐さく 結ひたる
ようなれば 袴の中
顔見世

新なれば 寄るもあぬ人の 形
色なれば ようなる人の しる 紐
新なれば 長のなれば 母の長のなれば
色なれば 袴なれば 長のなれば
霜日和

杓根の実のなれば 霜日和

事始
素月
文嘉
亥文
寅賀
巳春
素蜂
布山
丑子
加法良
酉後
常時

霜聲

霜花

杜山　杉の一しの日和
新南　霜の日和
洪平　霜日和
一載　霜の夢
源花　霜の秀
李牧　霜の竜
牲水　霜の秀
花海　霜の竜
祖紹　霜の夢
李東　霜の花
一初　霜の花
東清

霜柱　霜柱　和風

初氷　横の柴に一葉ちらり霜柱
　　町のうら霜ちらり
　　葱の葉に残る畑や霜ちらり
　　末の柴ちらり〳〵霜の柱
　　樹の葉に寒ふ泡や　氷　東州
　　緑毛の中の人よりちらり　氷　寒月
　　人の音をきき〳〵なりや　初氷　風柳
　　をき芦の一柴ふりやう　氷　花海
　　いちもんじ屋の庭の落ちり　氷　李牧
　　路芝の身よりきえうり　氷　雲峰
　　うくるの竹の木の柴や　氷　杉象
　　をの〻の音や芦の日陰きえうき　氷　雪岐

[illegible] 氷 [illegible] 祖紹
[illegible] 氷 [illegible] 五雲
[illegible] 氷 [illegible] 宋種
[illegible] 氷 [illegible] 李東
[illegible] 氷 [illegible] 白雨
[illegible] 氷 [illegible] 橋象
[illegible] 氷 [illegible] 素雲
[illegible] 氷 [illegible] 常時
[illegible] 氷 [illegible] 走水
[illegible] 氷 [illegible] 和好
[illegible] 氷 [illegible] 保芳

[illegible] 氷 [illegible] 文好
[illegible] 氷 [illegible] 梅司
[illegible] 氷 [illegible] 秋女
[illegible] 氷 [illegible] 志野
[illegible] 氷 [illegible] 麦雨
[illegible] 氷 [illegible] 千有
[illegible] 氷 [illegible] 環里
[illegible] 氷 [illegible] 芝角
[illegible] 氷 [illegible] 如敬
[illegible] 氷 [illegible] 油清
[illegible] 氷 [illegible] 宋角
[illegible] 氷 [illegible] 等仁

氷柱

氷る夜や鶴に乗りし櫂の音　涼谷
吹よせる風に行やら氷柱かれ　三斧
氷柱にも吉しき里や雨催ひ　魯川
壁を透る月の入る氷柱かな　古棠
大伯り立せて伸しぬる氷柱　丶
惠まれしものの縁か氷柱かな　兮胄
うら風や氷柱の影のもとしら　兄川
藻の根の岩にかくし氷柱かな　苣磨
くもらう晴るに冬ふる氷柱かな　双岳
冬籠り吉ら明の清かな　丶
手紀ましく氷柱や萱の影　布山
ふる夜の月の清さかな　希秀

榾

榾や彼代に旅ごころしき　素山
榾や戸口を出れば山鳴らし　久栄
榾やまだ見られぬ出行きもし　素月
榾や家にあまし子の出立　丶
榾くべて数やもとの人　飛良
榾の行衛や旅のおもし路　奎波
榾や人を来るまで出行けり　抱山
うんきや夜路へ向し旅人　雪貢
榾やそこりに雑子を揚てある　稼市
榾や我らかの家の裏戸口　芳古
榾の鳴出えて祖母の膝　卜昇
うへきの様も出行や川近し　浣渓

雪車

見るうちに麓へ着し遠き橇かな　雪山
橇や旅人かゝりし家の軒　笙風
雪車引の跡からも吹く雪の昆　素州
見送りて清き雪車の荷物かな　篁古
旅人や力を添る雪車の綱　錦銀
一衆の足見送りし跡雪車の中　蟻足
落る日をさらし絡げて雪車の遠りかな　古棠
行くゆくの夢を誘ひて夜の雪車　壺子
懐らしう雪車引声の長きかな　有川
雪車戻りからも行き山路かな　貫之
物寂の夢なり雪車の音　空鏡
芭蕉ありて見えや雪車の人　象雄

雪車引や上手の声にかゝる坂　篠堂

雪竿

そり引や松を目当の道しるべ　双岳
雪竿の外よりも常あさき雪　旭
雪竿や家の見えて遠き　そうめ
物あはれ旅や目あての雪の竿　盛文
雪竿をたよりて行や市をどり　一滴
雪竿やこゝろの猫黒き　如鶴
雪竿や松風止みて松のまゝ　松山
雪竿や人よりも高き月夜にし　笙風
雪まれや新たり錆する夜明けかな　梅二
雪まれや居るも出る道　祖館

師走

賑ふや常の師走かな　澄渓

世をよ所に師走は来ぬか寐覚には　升宝

草むらは師走ともなき住居かな　雲鼓

師走には知らぬ人ゝも常の寐起かな　ちよめ

寐ころびの人は師走を遊びかな　完路

人足をのせる師走の出立かな　梅国

市戻り見や師走の縫の春　山翠

冬の夜に寐る門なくて師走かな　隆風

丹波路や師走は牛の長手綱　環里

貫ぬかれる柊おくる師走かな　分字

師走とはなりにけり人の出初かな　松山

月の出を峰山尊の師走かな　李松

雪きしり積る山家も師走哉　杜山

寒入

追風にしそふも安き師走かな　水竹

市の灯は家のうちなき師走かな　暁翠

何もせぬ積りもなき師走かな　可篇

楊きけて人よりおそく師走かな　祖風

急ぎ行師走もつゞや市の中　文好

泊る夜の師走の英火かな　米花

人の灯て煤しを照らす師走かな　一也

川音のおそろし寒の入　生月

今出しておのれ斗や寒の入　柏條

はなやかや人の去り給ふ寒の入　象雄

音はつの風のうれしや寒の入　尾村

日暮れ八ツ寒の入　米山

寒聲

[illegible]　河内
[illegible]　山方
[illegible]　甘蔗
[illegible]　一清
[illegible]　文貞
[illegible]　外重
[illegible]　岩山
[illegible]　[illegible]
[illegible]　古松
[illegible]　[illegible]
[illegible]　見川
[illegible]　希彭

寒月

[illegible]　素月
[illegible]　庫角
[illegible]　古棠
[illegible]　[illegible]
[illegible]　油清
[illegible]　小[illegible]人
[illegible]　素月
[illegible]　徐蓬
[illegible]　九成
[illegible]　鬼一

冴

凍

鐘冴

鐘永

胼胝

竹鑓を持せハ学の元手胼胝ある　其肖
夜の雨の疵跡ちからの胼胝ある　卅堂
うら風に生の上おこや胼の足　米花
鞘を拭ぬ胼や済しき業の跡　孫市
手のひらや身の為を生しのあき　何亭
胼の手に黄金生れ杉紫の　丈水
出来しや竹節に嵒あ胼の胼　篠蓬
胼やそのあきにのこる釣竿　雪山
親にも子ハ胼を持つ世を　正寿
胼の床ふ何か見たりぬ　蒼鳥
何の実や立あるゝ風も　湊渓
胼や寐なしのちふきく壁の穴　芳古

氷豆腐

庖丁の刃先にしみる豆腐かな　鬼一
出来かゝる豆腐や月の消えかゝる　祖紹

貝焼

貝焼や杓しる山椒の雪　五雲
貝焼や弁当箱のこまかなし　旭風
貝焼や向ひ隣を活猫時　森彦
貝やぬるく店の猿子の猫任かな　由丸

生姜酒

佐よ出る火鉢ひろや生姜酒　祖紹
新らしき菓焼おろして生姜酒　林香
寐るまての家の跳足やせうか酒　理周

玉子酒

誠にまあ山の寒かしや玉子酒　旭風
寒しや一人手枕の玉子酒　何や哉
玉子酒出来て茶あく机かな　不鳴

藥喰

事始

文蒙　双岳　鶯巣　初函　梅二　保芦　分家　稼市　生背　家伝　乗山　号紹

節季候

暦賣

尾村　卜早　俳風　素義　稼市　鶯巣　心星　卜早　近喜橋　魯川　象雄　古雲

古暦　桂信　新閑

蓬宇　心星　表信　林雪　一角　乙良　篠白　雷山　祖風　古雲

葉竹賣

煤拂

札納　俊渓　葉居　序角　拙山　文嶺　梅嶺　俊芳　古棠　遠麦穂　義行　久栄　仲雪

餅搗

[illegible]

山里にこのもち搗一餅の書　旭蘭交

もち搗の姿を妻のきつゝ

餅をつく傳うら表八明よう　祖極

もち搗や宵寝も寝ん人の夢　清溪

餅の書写てすこ寝てあの一ゝ　鶴市

餅つきや教の仕やよいさゝ　袁彼

芭蕉や殺ゝしてつく餅の書　如山

餅つきや今ゝ家ゝ手伝ゝ世　素朗

もちつきや搗ゝ搗ゝ丸太根　芋月

餅つきや行ゝ手の法て一ゝつゝ　双岳

芋も自ゝ寝てつく餅つく代　尾村

餅延

[illegible]

衣配

[illegible]

年用意

[illegible]

年木

[illegible]

搗二　西蕉

仲布　鶴安

乎賀　鶴市

末公　搗侯

如法寺　文嘉

卜早　雪朗

春待

はらはらと又積りし木の葉かれ　篠風
隣り同士積てあるや年木かな　芦月
日なたうらにホ口掛ゆるも木かな　露明
浦町や春来て換る魚の猫　何也き
大勢で年木きざみて寺かれ　双岳
かくれ家は来ぬ日もあめの殻やつもる雪　水竹
白雪の中に春まつ垣根かな　汀山
あちこちに春まつ人もありにけり　芳里
春まつや言ふて日数を今からし　滄濱
わび住居したき春は待たれけり　晩翠
春をまちて年に起ふしを問ふ庵　花川
むかしから春まつ宿のあはひ哉　勇賀

春近

春まんや東風は戸口に吹きける　逸里
黄昏に芽春まち折りけり　青沱
いそのしき井に春待ちありかれ　静山
咲かけし梅さく園や春を待　加佐良
春をまつ人もありぬ庭の雪　山篆
むつましう春まつ庵や都鳥　如山
冬のいさき来る人はなしや春を待　来佗
春ちかの雪のうらなきや木の芽　杜松
戸の松をきて日影や春近き　葉寿
春近うなりし柳の芽かな　双岳
いつとなく伸る日あしや春ちかき　西寿
春近うなりし鉢井の梅かな　山篆

年志

行年

年暮

年惜　年を惜む意を表はす

年名殘　年の名殘り空のかゆき方の定めなきを年の名殘りといふ

牡山　月長　尾村　稿湯　みゆめ　冬枯　年雪　蓬宇　秋夢　冬宮　朱清　秋夢

年内立春　年の内に立春の來たるを年の内立春といふ

山子　梅泉　見川　冬枯　物菊　ゆや　太水　文起　東陵　物国　文起　夢侍

去年今年　去年と今年との境目を去年今年といふ

節分　節分の日に豆を撒き鬼を追ふ事

年

柊差

若菜や人は亀に枕子の雪　川濱

節分やちらし出散家の雪ゆのり　祖紹

はなしもさぬるゝ宿さきに柊さゝ　素山

さし込んで見るや柊を窓の上　下早

柊さしてよくのめる新の夕へかな　嘘風

追儺

家内に鳴る夕飯過の追儺かな　涼花

雪まきにちかひの追儺り家　庸角

呼ひ出す家のさつきあけて鬼やらひ　雲然

豆打

豆まきうつ声に鶏の羽をも觸りけり　石店

豆を打力のこもる小家かな　石影

まめ打や声ある上の傳る出し　猿市

打豆の餅に遊ぶ寝覚かな　菅山

年豆

打の間や菊に豆うつ社かな　芋陽

豆打て後ゆかしき雲しき六　、

寐る年も身ふるひまじや寐の豆　文貞

大雅家に声ま写る見の豆　蟻芝

厄拂

夢のうきあふいふしかし厄払ひ　文栄

寐耳に聞くをおし厄拂　甘蔡

明かしくやゝ聞きて厄払ひ　北松

人中や人にまかれる声やはらひ　葉素

新に打をきかしいまいく厄拂　祖紹

雑喉寐

雑喉の声におよぶ雑喉寐かな　嘘風

夜の明て夢のすかる雑喉寐かな　素山

さまよ寐して明けぬ雪の中にかな　南陵

年市　古い文書に奈良時代の東の市
　　　　　　　　　　　　　　　鬼一
　　　　　　　　　　　　　　　扇く
　　　　　　　　　　　　　　　遠文
　　　　　　　　　　　　　　　梅暗
　　　　　　　　　　　　　　　山
　　　　　　　　　　　　　　　雪富
　　　　　　　　　　　　　　　玉芸
　　　　　　　　　　　　　　　粤川
　　　　　　　　　　　　　　　得文
　　　　　　　　　　　　　　　公芳
　　　　　　　　　　　　　　　卜早
　　　　　　　　　　　　　　　麦秀

掛乞

年坂

年関

年瀬

車扇　雪の中を人の
　　　　　　　　　　　　　　　久栄
掛乞をいそぐ坊や正月寺
　　　　　　　　　　　　　　　又起
うけ乞に出て行く家の坂
　　　　　　　　　　　　　　　宮幽
玉売りの声のうら
　　　　　　　　　　　　　　　鈴歩
うけ売りの売れなくなる
　　　　　　　　　　　　　　　来嶮
降積る雪の中の坂
　　　　　　　　　　　　　　　徐風
抜参りの年とも
　　　　　　　　　　　　　　　か佳良
通ふ子もうとやすい家の坂
　　　　　　　　　　　　　　　古風
市中や人の往来も
　　　　　　　　　　　　　　　柳糸
家の笑傳子供を庭の
　　　　　　　　　　　　　　　丶
松の市もうとうとして
　　　　　　　　　　　　　　　昊球
家の関
　　　　　　　　　　　　　　　
家の掛乞

年浪　素山

餅花　雪貢

大年　柳通

年尾　立博

丘見　北枕

[illegible]

五雲　五穀　素月　砂山　柳糸　摩川　京芸　久栄　社松　素月　東雲　祖風

小晦日

大三十日

[illegible]

年夜

[illegible]

年越

除夜

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

除夜鐘

夫は確さめしつゝ除夜の星　友松
ちらちらと未定めなき除夜の柱かれ　鶴巣
見て見る除夜の宵寐の志がらみ　森石
出雲へは掛買ふ除夜の衛ちの水　油清
安まちあへは除夜の灯しや藪の奥　来乃
除夜の戸やさきて客も何まで人の来ぬ　好岳
近き日て写せつしつゝ除夜の鐘　静山
除夜のこの返ちがしき追手更けり　振泉
おもへば庵のほとりや除夜のこゑ　南陵
打明けは空へと去りて除夜の鐘　巨椎
除の来るき人す長し除夜の鐘　徐風
岁暮て人ハ行つゝ除夜のこの松　杜山

混題

除夜のこゝ此夜まりて出づる雪の庵　祖紹
藪の中や霙の跡の炭もやく　花海
掛乞は屠蘇なき庵の菜葉かな　勇賀
雪帯も藪とも新しや艸まくら　蟻芒
正月あるき雪霰の旅人や途炉縁　麦倚
来こらきこゆけふ餅ぬぐ隷　竹藻
出こ空に去りく枯れる雪　遊里
庵の夜や斯くもまゝ年忘れり　佳林
一家の鏡りや庵も人の来る　素有

初時雨

仰向てあふむる空や初時雨　芹舟
さりて来て去りて去りぬ初時雨　山方
昨日より去や猿なき時雨　鶴巣

小坐敷へ居寄つてきけり初しくれ 宋花
寺子共いつの人にはなりや来る時雨 守篤
田の神の帰りは遠んで初しくれ 羊双
遠さえめ来るや高峰の初時雨 柏條
艸の実の結ひかかりや来る時雨 影微
うの宿八梢に結ひかけ初しくれ 梅月
初しくれ明日八松の降らしかれ 河守
降る音の萩ちる紙にしも初時雨 鶴歩
石に浮て寐られ夜来る初しくれ かつ良
引舟の声写しくれや来るしくれ 雪菓女
鶴の羽し其もゆら来る時雨 帝寿
枯くれて艸八白ひて初しくれ 三帛

時雨

見えてなる雲さよ知りや来る時雨 梅五
降るうちに日の来るうちに初時雨 蛙丸
月影ハ勝手にかへて来るしくれ 芳古
急し世まよ子に鶴して初しくれ 春雪
石に鳴る綿木やきらしくれ 竹甫
簑虫のうき結く初しくれ 蓮守
町中に露もえて来るしくれ 組紹
降る中の雲萎けて来る時雨 鳥山
山くれ何中の絞里のしくれ 汎守
時雨れてかけぬ里のしくれ 芳山
来ぬ人の星も又堂泉田の橋 ヽ
やみぬ中て降や来る人の仕業 中埜

雪山
[illegible]
[illegible]
甘露
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜霜

霜

冬雨　甘蔗

寒雨　一茶

寒空　雪空

雪成

初雪

初雪の清きの上に雪の曙　素堂
初雪や貴船の山の神の子　旭
初雪や山の神の寄せ降る　和風
初雪の市　き絹の　且の明　双岳
初雪のうへに赤松紫うれ　蓼史
初雪や毎のうへに新しく　茅舎
初雪や畑よ　絹の　若子　青
初雪や　しらし　蕪の上　影湖
初雪よ　ちらし行る　丘の山　松うれ　得之
芹　き　ち　山人　雪の　葉間の　素　長芸
素麺へ　ちらし　ふ　赤き　雪の　人　飛良
雪の　松　赤き　赤雪る　黄雪る　樹石

雪の上に月は雪の上　一宣

葉計しかあるもしらぬ雪の花

ゆきをうゑ櫻ゆきをうゑ雪の人　楽居

ゆきをうゑ木もゆきをうゑ雪の新　静閑

積雪も此あるのうち樂の書　在水

鄰さを雪の法花花小　葉素

結る雪よ櫻の樹雪の新　小越

ふるさとをうしろうゑ義の雪　雪山

雪の日や千俳へうる雪一相　芳山

あちこちの目近よるも雪の新　双岳

山里も日のさしあるう雪のふる

雪よ雪の何ちと笑ゆる新日うれ　希考

引ゆるる櫻をふるうゑ雪の風　李寺

ちるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆの雪　冥月

雪ゆゆゆる風ゆ鄰さを和ゆの雪　宋雄

結ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ雪ゆゆ　志鄰

和ゆ雪ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ雪　森太

笑ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ雪　九成

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ雪の山　秋夢

葉ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ雪の枝　心星

雪の中　鄰ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　李鄰

宮岩ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ雪　文華

雪ゆ山の雪の山ゆゆゆ　素月

月ゆ月ゆ和ゆゆゆゆゆゆ雪の上　師風

山の縫ふ雪の雲の雲
舟こぐ人の雪の雲の物
雲ぬる雲や大樹の雲の雲
おりくる雲の雲の雲の雲
吹つる雲の雲の雲の雲
雪の月や雲の雲の雲の雲
降る雲の雲の雲の雲の雲
門口の雲の雲の雲の雲
雲の雲の雲の雲の雲の雲
うるの雲の雲の雲の雲の雲
長雲の雲の雲の雲の雲の雲
月の雲の雲の雲の雲の雲の雲
縫ふの雲の雲の雲の雲の雲の雲

春の雲　馬の雲　山の雲　蒸の雲　社の山　山の方　茅の雲　柳の雲　雨の雲　社の雲　俳の雲　鄙の山

粉雪

霰

一つの雲の雲の雲の雲の雲の雲
ふるいの雲の雲の雲の雲の雲
雪つの雲の雲の雲の雲の雲
月の雲の雲の雲の雲の雲の雲
山の雲の雲の雲の雲の雲の雲
粉の雲の雲の雲の雲の雲の雲
炬の雲の雲の雲の雲の雲の雲
門の雲の雲の雲の雲の雲の雲
降る雲の雲の雲の雲の雲の雲
雪の雲の雲の雲の雲の雲の雲
山の雲の雲の雲の雲の雲の雲
雪の雲の雲の雲の雲の雲の雲
大原の雲の雲の雲の雲の雲の雲

程用　樗の雲　足川　墓の雲　雨の雲　炭の雲　雪の雲　雪の雲　村の雲　雪の雲　雪の雲　秋の雲　雪の雲　月の雲

雪吹

[illegible]　美東
[illegible]　雪傍
[illegible]　緑風
[illegible]　影渤
[illegible]　壺子
[illegible]　柳泉
[illegible]　春月
[illegible]　雲住
[illegible]　竹よめ
[illegible]　石影
[illegible]　旭峰

深雪

門[illegible]　巨推
[illegible]　龍市
[illegible]　傍月
[illegible]　未傍
[illegible]　山翠
[illegible]　雪浦
[illegible]　芦蘭
[illegible]　孟蛙
[illegible]　久葉
[illegible]　春村
[illegible]　友杉
[illegible]　一宣

雪見

[illegible]命を[illegible]原雪うれ　栄花
[illegible]の[illegible]を[illegible]原雪うれ　雪山
[illegible]の[illegible]川へ眺めの[illegible]原雪うれ　苔九
雪原一来自[illegible]の眺の[illegible]雪　素屋
[illegible]を[illegible]雪見[illegible]　已弓
眺[illegible]雪見[illegible]　水壹
[illegible]出[illegible]降[illegible]雪見業　鶴堀
廣庭[illegible]の[illegible]雪見[illegible]　雪山
[illegible]の[illegible]や雪見の快の[illegible]　江具
[illegible]一人雪見の[illegible]れ　蔵山
[illegible]ふ[illegible]の降る雪見[illegible]　古堂
[illegible]町出[illegible]雪見業　芳山

雪佛

[illegible]れ[illegible]杉の下の雪見の[illegible]　杉泉
[illegible]門[illegible]る雪[illegible]れ　狂堀
[illegible]の[illegible]雪見の事　素井
[illegible]よ素[illegible]の雪の仏[illegible]　環望
[illegible]の[illegible]雪[illegible]　九成
[illegible]雪佛　義信
[illegible]雪　仏　弛山
人の[illegible]雪遊ん　壺子

神送

[illegible]の黄天神送　秋山
[illegible]日[illegible]神送　井布
眺[illegible]神送　馬鈴
[illegible]の[illegible]神送　堀周

神留守

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御取越

[illegible]

達ヶ忌

[illegible]

時雨會

芭蕉忌

翁忌

一瀉　樗陰
龍威　仙都
永休　立博
加作
丶
由化
北杉
葉里
林鳥

翁日

十夜

重英　柳陰
徐風　嵩山
文真　遊里
理閑　素岐
源龍　如雲
淡淡　布山

會式

御命講

蛭子講

拍子揃鉦を上吹まつり
伊勢へ立人も居て夷講
ふく堀を志つゝ吹革祭
の吹革祭りの吹を日代
志まつる吹革祭りよ宮しつ
空也忌空也忌を志まつり松を拍
去也忌去也忌を志まつる西の宮
鉢叩鉢叩の乞ひ鉢たゝき
寝つく寝ても鉢たゝき
叫る男の泣ても鉢たゝき
後生の御行を勧ふ鉢たゝき
る知らせ町のうちまち叩

杜松
卜半
象旅
鶴岩
曉月
松支
北松
古宗
拍象
拍南
田鶴
中鶴

自分の事ハ言ても鉢たゝき
仏事ハ言ても鉢たゝき
志ゆうの事ハ言ても鉢たゝき
時を知らせ鉢たゝき
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩
鉢叩

拍曉
石鼎
象村
法山
竹内
法弥
鶴岩
旭
和郎
尾村
象雄
芳山

御講　双岳
神樂　只雄
　　甘葉
　　末広
　　物合
　　事松
　　弘源
　　重袋
　　亮行
　　丸阪
　　小
　　暁裏

里神乐　稚子ノ家ニ来ル　里神乐　三帛
名残ノ雪ニ　雪貢
人生ノ来進ニ　里神乐　陸山
里神乐唱ヘ　乙女ノ舞ノ　秋岸
鶴ノ内ノ行キ　ノ里ニ　祖仏
白神乐　鶴ノ　古堂
夜神乐　夜ノ　稚市
夜神乐　月ノ　冥月
夜神乐ノ　月ノ　仲堂
雪ノ行ク　松ノ　林鳥
小原女ノ長裾　大師講　古堂
乙女ノ　大師講　東清

[illegible]人[illegible]大師遠　[illegible]
白足袋よ[illegible]仏や大師遠　藤市
獺八や旅[illegible]　麦俵
獺八や所八[illegible]　扣支
獺八や[illegible]　[illegible]
獺八の[illegible]　卜早
獺八の[illegible]　蕎馬
寒垢離や海[illegible]　蓬宇
寒垢離や[illegible]　尾村
寒垢離や[illegible]　蓬交
[illegible]や[illegible]　素山
[illegible]　金英

臘八

寒念佛

四ツ辻や人[illegible]　[illegible]仏　久栗
知[illegible]　[illegible]仏　井布
[illegible]　[illegible]仏　林馬
[illegible]　[illegible]仏　古宝
月雪の[illegible]　[illegible]仏　桂信
[illegible]　[illegible]仏　尾村
[illegible]　[illegible]仏　篤之
[illegible]　[illegible]仏　[illegible]
[illegible]人や[illegible]　[illegible]仏　藤市
[illegible]　[illegible]仏　素仏
[illegible]　[illegible]仏　徒[illegible]
[illegible]　[illegible]仏　知芳

御仏名

落葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

木葉散

芳山
古棠
雅雪
沮仙
素庵
義泉
未曉
芦月
仲布
昇恢
青陵
性永

散紅葉

志静
雨く
在示
甘蔗
松緑
山子
孫二
寒村
岱月
嘯月
様堂
石星

麦蒔

[illegible]

文好
和芳
春雪
未明
春沈
卜早
拾月
青淫
丈子
只性
一淵
春霞

蕎麦刈

[illegible]

几麦
畑
鳴山
水巷
宮人
雪東
鄰山
樹石
拙楼
長山
智西
嘯月
晩窠

枯柳

[illegible]

歸花

[illegible] 日中 [illegible] 流星 [illegible] 蛙堂
[illegible] 歸 [illegible] 蘇山
[illegible] 樹 [illegible] 枯柳 旭
[illegible] 咲 [illegible] 春 [illegible] 春雪
出 [illegible] 小村 [illegible] 春 [illegible] 鬼一
[illegible] 芽 [illegible] 春 [illegible] 勇賀
[illegible] 春 [illegible] 春雪
[illegible] 枯柳 [illegible] 枯經
[illegible] 咲 [illegible] 春 [illegible] 柳
[illegible] 寺 [illegible] 和好
[illegible] 歸 [illegible] 弥山
[illegible] 歸 [illegible] 花 文貞

[illegible] 村 芦月
[illegible] 祖郎
[illegible] 孫蓮
[illegible] 義石
[illegible] 蒼馬
[illegible] 蛙堂
[illegible] 凡義
[illegible] 古乙
[illegible] 連要樓
[illegible] 竜 [illegible] 竜 [illegible] 竜 [

山茶花

[illegible]

茶花

[illegible]

一渡　石
永井
左乙　畑
美月
文窓
帯秀
永松
双岳
尾村
変里
石影

枇杷花

宗祖の御誕生ひろめ
日新生出ぬ
法華ぬ
日の
ちる
枇杷の
枇杷
枇杷
遠
ひと
苺美
雲の
雨
宗祖の御誕生ひろめの日
法華経の
日の
ちる
枇杷の花
枇杷の
枇杷の
遠
ひと
苺美
雲の
雨
宗祖の御誕生ひろめの日
法華経の
日の
ちる
枇杷の花
枇杷の
枇杷の
遠
ひと
苺美
雲の
雨

稚花

冬枯

枯草

枯野

[illegible]

行春の日吉の遠山桜哉　羊双
春の人のちらぬ桜哉　雪曉
陽炎のうつるも行く桜原　芳古
いつもかくあの行末の世也　葉之
春の月うかるる世也　東岳
遠の竹を遠の宮ゐる桜哉　京郎
極楽桜の果也春の月　雪山
新たまつる桜也拝殿宿　飛雪
春かせぬうちの月陸桜哉　友竹
桜さしそ舟はそ遠きこの春　木公
新よ義経一小原桜は　芳山
さまる春ハさまる桜哉　西馬

遠里小行くも里の春桜哉　旭峰
春の人の桜さへ行く世面の春　紫山
海の月春ハ馬の嘶ひの世哉　竹城
春の春白しの春哉春の月　西子
春る春しの春の縁て桜哉　雪城
世ハ春春春春の春哉　八巻
うし海の日の春うる桜哉　丶
春よ竹一春哉桜を春る雉子　南陸
馬の春春陸春桜哉　近春楼
雨の春春桜桜の春哉　陸之
春仲の春桜の春哉　林鳥
名春の春の春桜の長春哉　蓼里

枯蓮

枯菊

枯萩

枯芒

枯芦

立波　立具　枯波　玄文　三交　冬枯　羊奴　卜畀　擂新　本宮　迷閑　仏星

芦枯て葉ふるの日和の雨
枯芦や[illegible]和きゝ[illegible]
枯立や雲の[illegible]芦
の秋〳〵芦も[illegible]の和仁蔵
枯芦や波[illegible]なる風の[illegible]
この秋芦や舟の[illegible]
枯何や[illegible]
枯芦や冬の[illegible]
枯[illegible]枯[illegible]
家の荻の[illegible]
尾も[illegible]枯
[illegible]枯尾花

枯荻

枯尾花

一意ふる〳〵出[illegible]尾花
舟へ[illegible]
[illegible]枯尾花
[illegible]枯尾花
[illegible]
[illegible]
[illegible]
雨の名枯[illegible]
枯尾[illegible]
[illegible]
枯尾[illegible]
枯尾花[illegible]
枯尾[illegible]

雲調　蘇石　吉好　秋島　蛙石　素屋　芦月　理周　紅楓　蛙丸　已有

冬草

石蕗花

八手花

柊花

秋岸
卜半
西鶴
中路
布山
芳士
某山
文京
若山
雲溪
深雪
素雄

寒菊

水仙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水仙や鶴を吹ふ雪の夜鶴の
仙書よ生絶路を探しを水仙
水仙や雪のみよ雨あるもの畑
水仙や雪のうの家の一日佳
人来て咲て食べあ仙を
水仙や蕪て埋まる雪の家
水仙の雪をとりて嗅よ月刻
水仙や之のうの日のまく蜂の孫
蒙古を雪のつく水仙
水仙や行や降り春しる
水仙や雪きいたまつこうき
水仙や鶴る方のあるき

文野
野山
梅月
立雪
食之
雪月
布山
石影
友南
雪情
祖徳
兵蜂

水仙の蕪のちきり　思佳き
佳ものくさをもくさ蕪のこうく
蕪を雪まきこのあり蕪畑
蕪なりふ川や蕪こうもうと
雪をつくを明ちる音や坊ちる蕪
蕪を降雪を雨る雪のなる
佳をもを市日のをし蕪を
蕪和や水ををし竹のを
雪月よ蕪ぬきを人や下結の雪
ちをちを蕪や人る氣をを
山雪を水ちをを大ちをを引
寺人竹を帝る佳て蕪二把

友南
一也
古業
蕪右
文起
蜂を
月氣
仲布
兵文
雪賀
影佳
佳字

大根引

[illegible] 入おやこのふち汁　春山
[illegible] 大根引　九嶷
[illegible] 大根引　東川
[illegible] 大根引　芳山
[illegible] 大根ひき　師雲
[illegible] 大根引　弥童
[illegible] 大根引　蘇山
[illegible] 大根引　吉英女
[illegible] 大根引　鄰山
[illegible] 大根引　英文
[illegible] 大根引　祖風
[illegible] 大根引　和風

冬至梅

[illegible] 大根引　抱山
[illegible] 問ふて大根引　秋女
[illegible] 入日前や　大根引　左乙
[illegible] 大根引　杜杉
[illegible] 引大根ゐれ　李陵
[illegible] 山根のさきや　玉梅　其彩
[illegible] 玉梅　嵩佳
[illegible] 玉梅　在示
[illegible] 玉梅　篤古
[illegible] 玉梅　何字
[illegible] 梅や　菱里
[illegible] 一二輪　川流

早梅

冬木立

冬牡丹

冬椿

室梅

いつまでもかはらぬ庭や室つまき　已有
うち渡やそのあつひて室梅　苣廣
室つまき咲やあるかぎりなる人の東屋　鬼一
梅だにも室をたてまつれば　兼行
室の木をたてまつれば　理用
室の木をたてまつれば　芳況
室の木をたてまつれば　隆俊
一室の木をたてまつれば　拾遺
室の梅はかうつまきをたてまつれば　拾葉
咲うちの日のこゝやそこ室の梅　奇考
うへうちの日のこゝやそこ室の梅　拾葉
海義小牡氏室の梅　久葉
室の梅　秋母
室のうめ

冬梅

冬梅
冬梅
冬梅

[illegible] 梅　心方
[illegible] 梅　遊里
[illegible] 梅　生花
[illegible] 梅　文好
[illegible] 梅　鶴堂
[illegible] 梅　晩翠
[illegible] 梅　一湖
[illegible] 梅　玉有
[illegible] 梅　如仙
[illegible] 梅　[illegible]
[illegible] 梅　易湖
[illegible] 梅　御條

寒梅

[illegible] 梅　淺渓
[illegible] 梅　晩嶺
[illegible] 梅　杉泉
[illegible] 梅　蓬交
[illegible] 梅　旭
[illegible] 梅　龍成
[illegible] 梅　月巴
[illegible] 梅　風梅
[illegible] 梅　梅渓
[illegible] 梅　浮風
[illegible] 梅　西馬
[illegible] 梅　蓬交

千鳥

[illegible]
[illegible]
[illegible]

東子
口星
杜杉
都閑
南戸賈月
夢呂月
桃南
秋女
南淡
夢月

鷦鷯

嚴山の嶮嵒よりあまたたびかさなりて
山分
俗名
文嘉
南淡
根杉
得之
鶯巣
由几
文好
桃南
蘇鉄
蘇鉄
原之

冬蝶

冬蝶

鶯子鳴

一湖

丈水

旭

得芳

徐蓬

吉渓

呂月

素外

友牧

双岳

川狸

樵堂

鴛鴦

[illegible]

水鳥

[illegible]

水戸の殿様八月下やうの舟　双岳
夢の如くに水戸の名所を見めぐれば　山子
水戸の潮を掬へて清き市の　若崎
水戸や清き〳〵て表のめる　志都
水戸の宮耳とそる一相うれ　孝陳
水戸の殿様つゝて清きうり　勇喫
水戸も都うまれぬ山の麓　雪貢
水戸や時宮そうら唱のさめる　左乙
水戸や浦霞の宮よりの浦　祝恵
人をうゝ　兵衛の宮〳〵　尾村
水戸や潮よりうまれ遊び宮　宮窓
水戸や芦をそる火よりさきく　篠結

浮寐島

水戸や有よりうる浦霞やうき　雪英女
人ゝの浦あるまの行一浦霞　なるめ
うるき宮と水戸の浦霞　袁伝
の市江よ中きくてうきゝ　袁雪
浦霞の宮恵をあくさ色　理周
潮や水〳〵めうるよう知ゝ　乗山
投川よりそる沙先や浦霞　庫角
起て居ゝ日八市一波よ浦霞　素月
雷の宮ふ一うる浦霞代　分宝
月の出て行る宮の水よりて浦霞　友松
恵ゝ宮と芦をうゝ宮の和浦霞　竹布

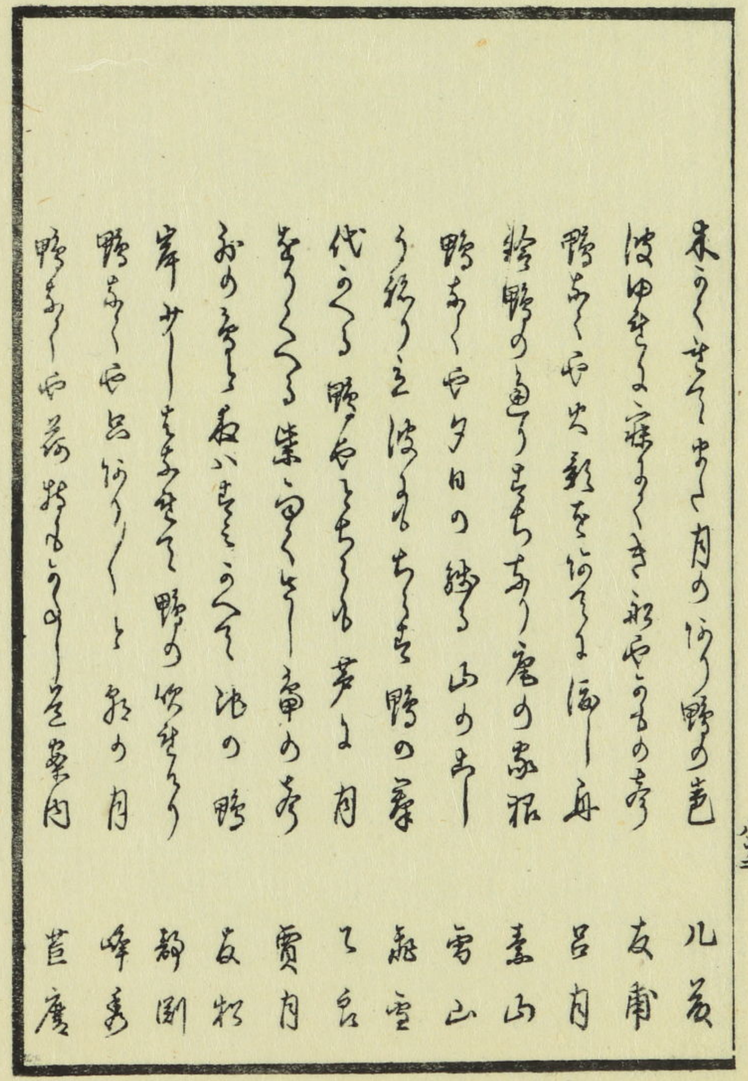
小鴨

[illegible]

拾遺集 [illegible]

拾遺集 [illegible]

拾遺集 [



羅

紫漬

網代小家

網代守

氷魚

乾鮭

生海鼠

鰒

鮟鱇

鱈

鱈　鯨

鯨突

暖め鳥

寒苦鳥

梟

木兎

凍蝶

冬鳥

冬鷹

夜興引

熊突

力草

鳥叫

鷹匠

鷹野

鷹狩

鷹

混題

山風や麓の庵のうつ音　素居
[illegible]　在糸
[illegible]　素休
[illegible]　桃二
[illegible]　竹葉
[illegible]　蓬交
[illegible]　祖徳
[illegible]　旭
[illegible]　其彭
[illegible]　峰地
[illegible]　有川

雑題

冨士　[illegible]　芹舎
浅草　[illegible]　苣庵
琵琶　[illegible]　卜早
松　[illegible]　由鶯
[illegible]　尾村
[illegible]　祖紹
鐘　[illegible]　独滅
[illegible]　尾村
都鳥　[illegible]　由鶯
水　[illegible]　苣庵
[illegible]　祖紹

雨　降ぬよりはるかに雨の四季よりあれ　卜畢
ちるはなるる人の恋ゆえ　石の書　加藤
傾城　紅葉はあるものなれども我世をうれ　拙速
竹　世にたのもしきうるはしき玉ふるうれ　尾村
雨学世世を祈るの志ものある　紅絹
鶴　鶴はなるるものうるるものうるるを　由巻
雪の後の遊びて雪の後の遊びて　尾村
浮しらむ亀の遊びを人のうく　紅絹

江都書林　下谷御成道　青雲堂英文藏板

小學本註	二冊	增補文語碎金	二冊、八面鋒	四冊			
扶桑蒙求	三冊	宋名家詩選	二冊	晩唐百家絶句	五冊		
題画詩類鈔	二冊	香簽集	一冊	和歌題百絶	一冊		
三大家絶句	一冊	蜀山先生詩集	一冊	東征稿 西上記	二冊		
漫遊文草	五冊	昔々春秋	一冊	酒中趣	二冊		
左傳凡例考	一冊	左傳比事	一冊	歳華一枝	一冊		
歳華一枝拾遺	一冊	名乗字引	一冊	名乗字彙	一冊		

略註五經字引一冊　篆書字引一冊　易學小筌一冊
書家必用一冊　書家錦囊一冊　書家便覽一冊
古韻通叶一折

醫書之部

痘疹戒草三冊　痘疹養生訣一冊　疱瘡食物考一折
治痘要訣一冊　續痘科辨要三冊　種痘辨義一冊
保嬰須知二冊　方函二冊　日養食鑑一冊

治痘要方一冊　治痘要方補遺一冊

雜書之部

三省録五冊　世事百談四冊　尾礫雜考二冊
東洲倉百首一冊　子昂真草千字文　子昂龍興寺碑
隷書醉翁亭記　蘭竹画譜二冊　竹沙小品一帖
光琳百圖二冊　光琳百圖後編二冊　光琳百圖後編二冊
画圖撰要三冊　一蝶画譜三冊　蕙齋略画二冊
刀釵圖考一冊　刀釵圖考二篇一冊　裝劒備考一冊
鞍鐙圖式一冊　甲冑著用辨二冊　貞丈家訓一冊
田畑調法記二冊　百姓袋一冊　校忘方圖鑑一冊

珍錢奇品圖録一冊　古錢鑑　一冊　佛鬼軍一休　一冊
三界一心記　一冊　日蓮御一代記　一冊　善惡種蒔和讃
八部拔講釋　一冊　暦日講釈　一冊　將棊圖式　一冊

歌書之部

貫之集類題　二冊　香川景樹集桂の落葉　二冊　海野遊翁詠柳園家集　二冊
千町拔穂　一冊　園圃拔萊　二冊　萬葉用字格　一冊
靈能一貫　二冊　源氏物語系圖　一折　手柄岡持狂歌狂文家あつめ　二冊
蜀山百首　一冊　仮名類纂　一冊　竹村茂枝集穂向屋集　三冊

俳諧之部

俳諧故人五百題　二冊　續故人五百題　二冊　掌中故人五百題　一冊
新五百題　二冊　新〻五百題　二冊　嘉永五百題　二冊
今人五百題　二冊　續今人五百題　二冊　今人五百題三篇四冊
近世五百題　二冊　白雄坊五百題　二冊　過日庵撰今人百家類題　二冊
過日庵撰近世十家類題　二冊　名所千題集　三冊　題林發句集　四冊
十萬發句集　四冊　乙二七部集　二冊　曉臺七部集　二冊
今七部集　二冊　嵐雪句集　二冊　發句類聚　二冊

發句古今撰 二冊	過日庵輯 蒼虬翁句集 二冊	今人發句集 二冊	
俳諧寐梨 二冊	饒舌録 二冊	過日庵撰 名家類題 四冊	
一葉集 芭蕉翁一代集 五冊	一葉集 後篇 翁之文消息 四冊	俳諧集草 十六篇	
俳諧四季草 四冊	安政五百題 二冊	過日庵撰 類題金玉集 四冊	
風俗文選拾遺 二冊			
梅澤先生手本向	庭訓往来 一冊	風月往来 一冊	
千字文 一冊	消息詞 一冊	庭梅帖 一冊	
御成敗式目 一冊	女今川 一冊	女雅俗要文 一冊	
新三十六歌仙 一帖	雪後帖 石摺 一帖	新撰詩歌合 一冊	
續撰朗詠集 二冊	實語教童子教 一冊		
諸流手本向			
尊圓古今序 一帖	同真名序 一帖	尊朝瀟湘景 一冊	
大槁庭訓往来 一冊	大槁新年帖 一冊	橘正敬庭訓 一冊	
正敬商賣往来 一冊	蓮池堂法帖 一帖	瀧本芳野道の記 一冊	
瀧本鴻書帖 一冊	雜書并繪入物之部		
	曲亭馬琴案文 雅俗要文 一冊	十返舍一九案文 諸國書狀指 一冊	

教訓圖會 前後二冊
大學笑句 一冊
毎朝神拜小言 一折
山東京傳作
滑稽文選 一冊
甲越勇士鑑 前後二冊
女大學玉文庫 一冊
皇朝三字經 一冊
裁縫早手引 一冊
式亭三馬作
小野馬鹿村 一冊
安見道中記 一冊
諸職雛形 一冊
女庭訓往来 一冊
繪本國恩俚談 一冊
米錢朐算用 一冊
十返舍一九作
附會案文 一冊
唐土名所の繪 一枚
花鶴百人一首 一冊

天下一方 登龍丸 食物一切 禁法

一包 代百文
一廻り 代六百五十文

快登丸ハ天下一方我家の秘法にして疾喘留飲一通りの妙薬
なり殊に十年世年疾喘にて迫上狗痛に立居成がたく又留飲に
気をふさぎ絶痛幾度も寐る寐られず成こなきも難き症も是
重き八一廻り数年来の難症ハ三廻り も服用する時ハ忽ち
疾を治し喘を止め留飲ハ狗を開き痛全く治する事疑
なし是ハ固て人気の根本を補ひ気血を巡らし脾胃虚
弱の気力を保し寿を立云古さへのよ英寿を業一病

延命ゝ事数万人用ひて試て生切の大なるゝ古今無
双希代不思儀の妙薬と申切たるなり

一十年廿年喘息　一労症の嗽　一引風の嗽
一からせき　一咽喉ぜうつき　一疫病取続き歩ず
一疫よ血の交り　一疫病出て出ず　一動気はなく心中
一小児百日嗽　一婦人産後の嗽　一留飲して絞痛
一留飲して乳童　此外疫嗽留飲より起る病一切よろし
一当春をはじめ小人時々用ゆる時は春を迎ふる妙薬
抑疫嗽の薬草ゆう法の出処多く産薬も変よりて

引札に疫嗽と云よ及ぶて胸痛近く迷よあるる板よりて
いとゞる疫嗽留飲の一病ゝいとゞる治ー難き者也扨此丸薬
年久しき疫嗽留飲して医療をはくし百薬を用ゆいとゞる
治ー難き難症ゆても速よ治して薬八年ゞ中の名法ゆて万人
を救ひて試ゆる人として治せずゝ人なし　依て天下五畿の一番薬
ゆて他よ類なー当の当のゆ切能速ゆるゝいとゞも下し薬ゆ
年ゝ婦人産中の産後よ用ひ害なきを知るー能ゝ用ひ
て偽なき名法ゆるを知べー　尤和ゝよ絞産薬多くゆ留
包紙ゆ仕様ゝ上方よ出て取次変ゆて出来て下れ

東叡山御用御書物所　江戸下谷御成道
青雲堂英文藏製

京都三条通り　出雲寺文次郎
大坂心斎橋筋　河内屋義兵衛
江戸日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同下谷御成道　英文藏

小蓑菴雅嶺輯
遥日菴祖紹補校
融々堂卜早校

萬延元年春發行

書林

大坂北堀江博奇　河内屋義兵衛
江戸日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同下谷御成道　英文藏

京都三条通り　出雲寺文次郎
大坂心斎橋筋　河内屋義兵衛
江戸日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同下谷御成道　英文藏

遠州中泉　海屋太右衛門
尾張名古屋本町七丁目　永楽屋東四郎
越後長崎丸山　伊勢屋忠兵衛
伊勢桑名　天満屋武兵衛
下総佐倉本町　西文堂利兵衛
永戸下町本町七丁目　須原屋安次郎
筑後府吳服町　久兵衛屋勝五郎
加賀金沢　八尾屋兵衛
堺表佐野天満　畿内第一之郎

奥州仙台
同金澤表松の町　伊勢屋忠兵衛
同　八田郎
伊勢松本　富英屋忠兵衛
同善光寺　小林屋義兵郎
上総宮崎　沢井屋要義
上総猪浦　鏡田万義
下総多古　土屋勘次郎
堺表材木　釜屋兵衛
越後三条　扇屋七右衛
同　水原　小田島俊兵衛
甲府魚丁　村田屋幸右郎
堺表岸沢　万屋利兵衛